

現在の水環境を理解し

未来の環境を考える

張昇平 教授

Prof. Cho Shobei

水環境とまちづくり

3年後期／専門部門（地域計画科目群）

これからの時代にふさわしい、環境倫理

—この講義は、どのような内容でしょうか。

水環境とは、水環境とは、水量、水質、水生生物、水辺地などの要素から構成されています。私たちが日々恩恵を受けているこの「水環境」には、人間の活動が大きな影響を与えています。そしてその影響の与え方には、社会の仕組みが大きく関係しています。本講義は、**環境・人間・社会が相互に作用しあった結果として、現在の都市の水環境が形成されていること**、その現状を知ることから始まります。そして、人間と水環境との関わり方を改善するための対策、その対策の計画・評価に必要な理論と技術についても学びを深めます。環境は自然の遺産であり、未来からの借りものだ、とよく言われますが、我々一人ひとりの小さな行動と、社会の仕組みによって変えられるものでもあります。環境社会に対するものの見方を身につけること、水環境への理解を深めたうえで、**「自分に何ができるかを考える」**力を身につけることを目的とした講義です。

—講義を通して、学生にはどのような学びを得てほしいですか。

個別の知識や技法を暗記することよりも、もっと根本的な環境に対する考え方や、**21世紀に相応しい環境倫理の礎を身**

につけてもらいたいですね。倫理観の確立が、個人の意思決定に大きく影響してきます。社会に出てから何か環境問題に触れる機会があったときに、私の話や紹介した事例などを思い出してもらえるような記憶の引き出しのひとつになれば、と思って講義をしています。思い出すことができれば、そこから勉強し直すことができるからです。もうひとつ、私が伝えたいことは、**私たちの健康やQOLに多大な影響を与えている水環境に対して「無関心」**でいることへの危機感です。現状を知り、**まずは関心を持つこと**が、持続可能な未来へつながっていくのではないのでしょうか。

青春を謳歌しながら、自分らしい4年間を

—この学部で、学生たちにどんな学生生活を送ってほしいですか。

大学は、社会人になるためのモラトリアムです。大学の4年間を利用して、都市という切り口で自分なりに社会を理解し、社会における個人の役割や可能性について深く考える時間にしてください。**社会人としての能力を身につけると同時に、人生の目標を見つけてほしい**ですね。もちろん、青春を存分に謳歌することも忘れずに。



水俣病

原田 正純 著（岩波新書）



学生におすす
めの一冊

水俣病を「教科書で見た過去の事故」と思われがちですが、今も多くの人が苦しんでいます。当時の社会構造、被害が拡大した背景、救済が遅れた原因構造などが今の日本にはまだ残っており、水俣病ではない新たな水環境災害がいつ起きてもおかしくない状況です。貴重な教訓に満ちたこの一冊に、命を守るヒントが隠されています。

学生の声 /

水が汚れる原因や汚染物質を追跡する方法を学び、水域に流入した物質の変化過程には、物理学的・生物学的・化学的プロセスなどさまざまなものがあること、私たちの飲み水の安全性が脅かされることも知りました。張先生の解説はとてもわかりやすく、私たちの生活と重ねながら理解できています。

岩田 奈々 さん（3年生）

